

2.2. 稲淵棚田【奈良県明日香村】

範	圃	稲淵地区は奥明日香の山間部にある約10haの水田				
所	在	地	奈良県明日香村稲淵(いなぶち)			
生	物	地	理	区	分	アカマツ林
環	境	要	素	水田(), 畑、小川・水路		
自然条件	地	形	明日香村は奈良県のほぼ中央部、奈良盆地の東南端に位置し、奈良盆地に連なる平地と竜門山地の一部からなる。南東部から北西部に傾斜しており、平地部の標高は約90m、山地部は700～800m前後で、なだらかな山並みに囲まれた盆地型地形である。			
	植	生・生物等	ホタルが飛び交い、蝶が舞う自然豊かな里山の棚田			
			 <p>撮影時期： 日本の棚田百選にも選定された「稲淵・神奈備の郷」の棚田</p>			
社会条件	人口(市町村)	5,871人(農家率32.5%、副業的兼業農家が多い) 明日香村のデータ(H22年)				
	土	地	利	用	市総面積の17.1%が田畑、56.1%が山林である。明日香村のデータ(H22年) 対象地区は、飛鳥川を中心に右岸側に居住地域、左岸側に棚田が広がり、日本の中山間地の原風景を呈している。	
	歴	史	・	文	化	明日香村とその周辺は、飛鳥時代と呼ばれる6世紀末から7世紀末にかけての約100年間、一時期を除いて都が営まれ、日本の古代国家体制が形成された地域であるとともに、仏教その他大陸文化の影響を受けながら飛鳥文化が開花した場所である。 村内には宮跡、古墳などの文化遺産が数多く存在し、万葉集にも詠われた自然環境と一体となった歴史的な風土景観を現在も色濃く残している。
法 指 定 、 行 政 に よ る 評 価 の 状 況	自然環境・景観保 全や国土保全に関 わる地域指定等	歴史的風土保全地区、風致地区				
	すぐれた自然、景 観、伝統文化など としての選定	農水省「日本の棚田百選」(H11)				

稲淵棚田				
取組主体	タイプ	地元集落等:集落、地権者など地元の関係者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		NPO 法人 明日香の未来を創る会	地元農家および開始当初からのオーナーで構成される	
経緯	<p>平成8年より、「棚田オーナー制度」を実施。棚田での米づくりを通して、都市と農村の交流や、人と自然の共生、また新しい文化の発信を目指して、「棚田ルネッサンス」と名付けた取組みとして展開している。オーナーは、地元農家の指導のもとすべて農作業を行なっているが、より自然と親しむことを求めたオーナー会の発案による「恋華まつり」、「蛍のゆうべ」などのイベントが始まり、これまでとは逆にオーナーが企画し地元が協力する体制も形成されつつある。</p> <p>また米づくりだけでなく、周辺の草刈りや案山子づくりなど棚田の景観を守るためのイベントも多い。オーナー制度事務局の(財)明日香村地域振興公社が活動の PR や募集等の実務的支援を行っている。</p>			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	棚田も貴重な文化遺産であることを認識し、都市住民とそれを共有することで新しい稲淵の文化を創設する。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	<p>・田んぼコース : [募集] 1区画 40,000 円で 78 区画を募集(1区画 100 m²) [内容] 自分の田んぼで稲作ができ、新米 40kg がもらえる。</p> <p>・トラストコース: [募集] 1口 30,000 円で 15 口を募集 [内容] 共同田での稲刈り・脱穀作業と、景観保全のためのススキ作り等の農作業体験ができ新米 30kg がもらえる。</p> <p>・はたけコース : [募集] 1区画 10,000 円で 100 区画を募集(1区画 30 m²) [内容] 自分の区画で野菜や花を栽培できる。収穫物は自分のものとなるだけでなく、地元農家の栽培指導も受けられる。</p> <p>オーナーは 1 年更新。田んぼ・トラストコースは設定された活動日に農作業を行う。</p>		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	[対象となる資源] 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会	該当なし	
		環境教育・学習活動		
		里地里山体験・環境保全		
		農林業体験活動		
		エコツアー		
その他				
野生動植物やその生息地の保全・管理	該当なし			
地域の良好な景観の保全・修復	該当なし			
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	[文化財指定]	
		資源利用技術		
		その他		
	該当なし			
連携・協働	<p>地元住民がインストラクターとなり、オーナーの農業指導を行う。今年で 16 年目を迎え、開始当初からのオーナーが新規のオーナーを指導するようになり、この活動によって、棚田での耕作地が増え、棚田の維持・管理、周辺一体の景観保全に役立っている。</p> <p>オーナー募集等の広告宣伝や行事の案内通知などについては、事務局として(財)明日香村地域振興公社が請け負っている。</p>			



撮影時期：H19年6月
棚田オーナーによる田植え作業

撮影時期：

景観としての
利用・評価

不明

取組の特徴

棚田を活かした新たな文化の創出が、地域活性化をはじめ他地域への取組波及の効果を生んでいる。
「棚田オーナー制度」に加え、棚田での米づくりを通して、都市と農村の交流や、人と自然の共生、また新しい文化の発信を目指す、「棚田ルネッサンス」と名付けた取組を展開している。田んぼ・トラストはたけの各コースを設け、田んぼ・トラストコースの場合、設定された活動日に農作業を行う。米づくりだけでなく、周辺の草刈りや案山子づくりなど棚田の景観を守るためのイベントも多い。長年中止していた地元の祭りが復活するなど、地域にとっても良い効果が生まれている。
また、委員会による活動は、自然に対する関心の喚起や伝統文化継承の機運の高揚、他地区でのオーナー制度の開始などの波及効果ももたらしている。

【参照資料】

明日香村 HP (<http://www.asukamura.jp/>)

財団法人農村開発企画委員会 HP (<http://www.rdpc.or.jp/index.html>)

NPO法人明日香の未来を創る会 HP (<http://www.asukamirai.org/pg363.html>)